

「方法について」

倉橋重史

方法というところ、哲学や科学論かと思われるのであるが、ここでデカルトの「方法叙説」やポアンカレの「科学と方法」に関して語ろうとするのではない。佛教大学への通勤方法について書いてみたいのである。

縁あって佛大にお世話になって、まだ三カ月も経っていないが、この間通勤の方法についてあれこれ試みてきた。私の家は枚方市にあり、大学までの距離は地図上でさはほど遠くない。以前の勤め先と比較するとかなり近い。にもかかわらず時間が意外とかかるのである。そこで時間を短縮する方法を考えた。クルマを使うと早し、楽であり、便利である。しかし朝の渋滞にまぎこまれたら大変である。これを避けるために家を早く出なければならぬ。私は低血圧症で朝の早起きは苦手である。だからこれも限度がある。通勤時間が長くなる原因の一つは市内の交通にあると考え、地下鉄を利用することにした。たし

かに市内の時間は短くなる。だが丹波橋や京都駅、北大路での乗継ぎや手間を考慮しなければならぬし、料金も高くつく。さらに悪いのは朝八時前後の私鉄、地下鉄のラッシュである。

そこでまた別の方法を模索する。京阪四条に下車、阪急にのりかえ、地下鉄で北大路へ、そしてバスに乗継ぐという方法である。しかしこのやり方も先と同様乗換えの手間、地下鉄の混雑、料金の高さといった問題を残す。そこで京阪三条に下車、バスにのる。これが一番ありふれた方法らしい。だがバスが混み、時間がかかる。路線もかえてみるがうまくいかない。そこでやっと京阪四条に下車、バスにのる方法が比較的混まないことを発見した。

混雑といえば以前の通勤で大阪行きのホームから京都行を眺めていると、案外空いているなと思っていた。四月から通勤の方向が逆になり京都行きに乗ってみて、予想に反して混んでいることを発見、これは通勤時間帯のちがいにによるものであった。今迄は大学側の敬老精神(?)のお蔭で、朝一時限目の講義に当ることはほとんどなかった。だから九時頃の車輛は空いていたのである。しかし今は

一講時の授業がつづく。そこで知恵を働かせねばならない。混雑をさけるために急行を敬遠し普通に乗ることにした。勿論この方が座席の空く機会が多いからである。しかし時々立ちん坊ということもある。

このように安全で、時間がかからず、料金も安く、楽に通勤する方法を模索して三カ月近く経過しようとしているが、今頃になってやっと自分なりの通勤方法を見出したと思っている。そしてこの試行錯誤の経験を別のところで役立たせた、方法にかんする説明に利用したのである。方法 (method) の原語はギリシャ語のメタ・タ・ホドス (meta ta hodos) である。それは (hodos) つまり道をたどる (nachgehen) など、目的に到達するため道に沿っていくことを意味する。この場合、多くの道があり、どの道が目的の実現にとって最適を比較する方法、さらに新しいルートを発見する方法を考え出すことの必要なことを話したのである。しかし最適の方法をより早く見出す方法について云うのは遠慮した。通勤方法の発見に三カ月近くかかるようではそれを語る資格がないからである。目下通勤時間の有効な利用法を考えている。

(くらはし しげふみ 社会学部教授)